



# 宇宙

Vol.44

●題字は深町正喜氏



宇目町『ととろバス停』小南達矢氏撮影

## 理事長メッセージ 「GONGOVAの未来」

- 新型インフルエンザ対策の指針を国が改定しました
- 水環境委員会報告
- 聖陵会運動部活動開始
- 日田祇園
- Seiryō Topics  
イベントランチ・外来バス遠足・全体研修会
- 日田散歩 ③⑩  
霊威の妙

## 夏祭り “聖涼祭”

8月1日(土)

テーマ

自然と生きる

～きれいな水で花を  
咲かせよう～



屋台や催し物を用意して皆さんの  
ご来場をお待ちしております！

### GONGOVA の未来

ビルマ国境まで 500m の村だ。英語もタイ語も通じない。いわゆる麻薬のゴールデン・トライアングル。世界有数の麻薬生産地帯である。然し、タイの女王陛下の厳命で撲滅作戦がとられ、この地域での麻薬は激減した。然し、その結果、村人は働かなくなり、朝から酒を飲んでごろごろしていた。「バンパープア」・・・それがこの村の名前。

この村にコーヒーの樹を植えることになった。7000 本の苗木が用意された。

昼は 37℃、朝は 5℃という厳しい気象の中で学生達はバタバタと倒れていった。俺は点滴で毎日忙しくしていた。諸君の中には俺が点滴したり植林したりするのを想像できない職員もいるだろうが、意外に上手なのだ。

その後聖陵会と縁が深くなった学生も多くいた。最初に一人で日田に来て俺の下宿に泊まったチサちゃん（現、日本銀行幹部）、陽子ちゃん（国際銀行主任）、美紀ちゃん（外務省地雷班・班長）。この中で陽子ちゃん、美紀ちゃんは一緒に聖陵会の旅行に参加し、屋久島に登った。

さて、我等のバンパープアの植林は少しずつ進んだ。一人当たり 300 本植える予定ではあったが、自分は牛や豚が柵を越えてコーヒーの木を食べるのではないかと考えていた。

いよいよ自分一人、村を離れる日がきた。皆でソボンの村まで送ってくれた。飯を食った後、村

医療法人 聖陵会 理事長 岩里 正生

の広場にトラックがやってきた。俺は荷台にとびのって皆に告げた。「皆があれば一生懸命毎日毎日植えたコーヒーの樹は来年一本も残っていないだろう。然し来年、その事実が分かったとき、決して泣くな。樹が一本もなくてもここで全力を尽くした事実はここに残る」・・・敬礼して別れを告げた。全員敬礼、そして何人かの涙。

一年経って一人でこの村に来た。一本のコーヒーの木もなかった。6744 本、総て消えていた。重い心で日本に帰り、チサちゃん、諒、竜とかに電話をした。皆言葉もなかった。中村がかろうじて「世の中にはどんなに努力しても駄目なことがあるんですね」と言った。

その後チサちゃんから手紙が来た。『バンパープアから日本に帰った時私の GONGOVA は終わったと思っていた。でも、あの電話を切った後、分かった。私の GONGOVA はこの日常的な日本で今始まったんだと』



### GONGOVA ～タイ北部山岳少数民族への支援活動について～

学習院大学のボランティア活動であり、聖陵会が医療顧問として関わっている GONGOVA は、これまで川嶋辰彦教授（秋篠宮紀子様の実父）が中心となって活動していましたが、今後

は別の教授にバトンタッチして、今年の 8 月あたりに新たなメンバー（生徒）をたずさえてタイへ赴く予定です。今後とも活動への支援を宜しく願います。



## 新型インフルエンザ対策の指針を国が改定しました

表題の対策改定を厚生労働省が6月19日付けで発表しました。

それによると、今は既に初期対策による新型フル封じ込めが困難になっています。そこで今後は、次善の対策として、パンデミック（感染爆発）をできるだけ緩やかに抑え、社会的混乱をできるだけ穏やかに済ませ、そういう方針に移行してゆくのです。(1) 重症患者の増加が予想されるので、それに対応できる医療体制を整備する、(2) 総べての病院で新型フルを診療するので、院内感染を防止する対策を強化する、(3) 病原性が高まるなどウィルス性状の変化が予想されるので、その変化を監視する、(4) 時間と地域を移しながら流行が変化してゆくので、その動向を的確に把握すると。

### 今後の医療体制と各病院医院の課題

外来診療は、今後の患者数の増加に対応するために、原則として全ての一般医療機関において行なうこととなります。このとき、新型フル患者から他患者に感染が伝播しにくいように、各病院で感染対策をとらなければなりません。完璧な感染対策は困難であっても、できるだけきちりと基本を守った感染対策を打つことが大切だと考えています。

治療は原則として自宅療養とするのですが、重症患者には入院診療が必要です。多数の重症患者発生が予想されるので、感染症専門の病院以外にも、一般病院への入院も要請されるといいます。院内感染を防止する各病院の対策が試されることとなります。

聖陵岩里病院 感染対策医 堀内桂輔

### NPO初島森林植物園ネットワーク主催 「巻枯らし作業」に参加して

6月7日快晴、私は里山植林班として同班の森辰夫さんと二人、釜ヶ瀬子供の森上流、国見山登山路沿いにかけて、「巻枯らし作業」に参加してきました。

「巻枯らし」とは、環状剥皮の強度のもので、木の皮を10~20cm幅に剥ぎとり、樹液の転流を遮断して時間をかけて木を枯らす方法です。

この作業をすることは

- ・木同士の競争を和らげ、残った木（下層の広葉樹）を強く大きくする
- ・密度調整、共倒れ防止、健全な強い森にする
- ・林の中を明るくし、下木、下草などを茂らせ、動物にも住みよい豊かな森にする
- ・生長率(Co<sup>2</sup>固定能力)が上がり、地球温暖化抑制に貢献できる
- ・スギ・ヒノキの植えすぎの是正

以上のようなことがあげられます。

私たち二人は、参加者6名と共に、小野のNPO法人初

### ホタル鑑賞会

6月10、11日にホタル鑑賞会を開きました。残念なことに10日の親水公園は雨天のため中止となりました。11日は雲ひとつない快晴、天候にも恵まれ開催する事が出来ました。HP・ストリーム・花月クリニック合わせ総勢40人の参加・子供さんもたくさん参加してくれました。集合時間が19時30分だったのでまだ少し明るく参加者は



島森林植物園ネットワーク代表、神川建彦氏宅をシャトルバス（軽トラ）で出発し、山の頂上付近まで行き、そこから釜ヶ瀬子供の森入り口まで降りて行きました。山に入る前に腰に蚊取り線香をつけ、手にはのこぎり、木の皮を剥ぎ取る為の竹べらを持ち、山の中に入りました。入る前の説明ではマムシがいるから気をつけることと、木の枝を握ると枝が折れることが多いので気をつけるという注意がなされ、急な傾斜面を見てどうやって降りていけばよいのかと不安になりましたが、何とか皆さんの後について森さんと二人で木の皮を剥ぐ作業をしながら下山することが出来ました。途中、シダをはじめとした植物の観察などもしながら下山し、午前中があつという間に終わりました。

下山した後の昼食の団子汁のおいしかったこと・・・忘れられない味になりました。誰もが出来ないようなすばらしい経験が出来たと達成感に満ち溢れた一日でした。

水環境委員会 小山清子

「本当に来るの～」と不安気でしたがだんだん暗くなるにつれポツリポツリとホタルが始めました。辺りが真っ暗になるころには、伏木公園近くの木はクリスマスツリーのように見えました。それをみた参加者は来てよかったと喜びの声に包まれ帰宅の路につきました。

ストリームテイケア 山内

## 聖陵会運動部活動開始

### ●ソフトボール部

私たちソフトボール部は現在 30 名近い部員が在籍しています。老若男女色々な面々が粒ぞろいしています。日頃の運動不足解消、ストレス解消、職員間や地域の方々との親睦を目的に、未経験者の多い中楽しく活動しています。

活動内容は、市役所が主催するナイターソフトボール大会や練習試合、他チームとの練習試合、毎月第 2 月曜・第 4 木曜の練習などです。

先日は初試合である春季ナイターソフトボール大会に出場し、惜しくも初勝利を逃しましたがこれからの目標や課題ができ、とても貴重な経験となりました。わがチームのピッチャーはなんとママさんで、しかもとてもパワフルです。更に岩里理事長を総監督とし、自ら指導にもあたってくれる程の熱の入り様です。

今後は、定期的に大会が開催されるので参加し、初勝利目指して頑張っていきたいと思っています。皆さんの応援をお願いします。

また、今以上に部を盛り上げていきたいので、常時部員の募集も行なっています。夢にときめき、明日にきらめきます！

キャプテン

ストリーム作業療法士  
矢幡大典



### ●テニス同好会

テニス同好会は職員間の交流と親睦を深め、また各個人の日頃の運動不足解消を図り、リフレッシュすることを目的に、土曜日の 19:00 ~ 21:00、大原テニスコートにて活動を始めました。

特にこの集まりは決まりは作っていないので、硬式でも軟式でも OK！どなたでも参加できますので、興味のある方は是非その時間に第 8 コートまで来てください。ナイターなので、日焼けの心配も無いですよ！

## 日田祇園

日田地方ではおよそ 500 年前から小さな祇園社が数箇所て祭られていました。江戸時代、天領として栄えた日田の商人が勢力を持つと、隈や豆田に大きな社を建て山鉾を奉納しました。山鉾が初めて記録に登場するのは、隈町長嶋家「御用留記録」の寛文 5 年【1665】の項目に「山鉾木綿幕勾欄、青杉竹にてはさみ、太鼓斗あり」とあり、小規模の舁き山でした。日田の経済が発展した正徳 4 年【1714】には現在のような山鉾がすでに完成し御神幸も同じように行なわれていました。文化文政期には、山鉾の高さも 6 丈（18m）に達し、時の代官が高さ 3 丈に規制した記録も残っています。

明治 32 年の電灯線設置により、高さ 5 ~ 6m の山鉾を巡行していましたが、平成 2 年、豆田地区四基の山鉾の復活と隈地区の一基（高さ 11m の平成山鉾の建造）を機に各町の山鉾も高さ 8m 程度になり平成 8 年には、国の重要無形民族文化財指定。平成 16 年には、ハワイのホノルルフェスティバルに参加し、その雄姿を披露しました。

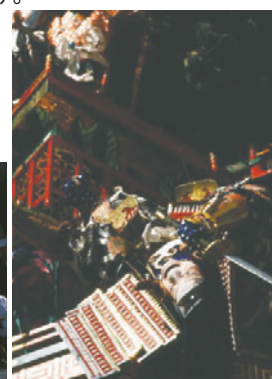
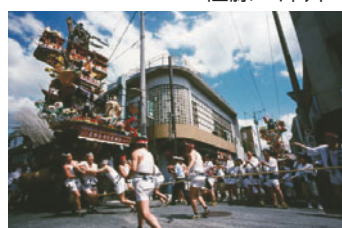
山鉾背面を飾る見送りは、豆田に保存されているものも合わせて 12 枚。華麗な天領文化をしのばせています。

祭日は以前は旧暦の 6 月 14・15 日でしたが、現在は新暦になって 7 月 20 日過ぎの土・日に行なわれています。

山鉾の台で奏される祇園囃子（ぎおんばやし）は、文化末年【1817】頃、代官所の目明（めあかし）小山徳太郎によって創められたといわれています。民間の俗謡などをもとにして、三味線、笛、太鼓にのせ、独特の旋律と情緒を奏でています。

私も毎年何らかの形で祇園にかかわっています。

ストリーム介護  
佐藤 洋介



## イベントランチ

6月に聖陵ストリームのデイケア・デイサービス焼き鳥をしました。初めての試みで、焼き鳥器を屋外に設置して香ばしい匂いと煙を放出しながら串を一本ずつ焼いていきました。利用者は自由に動き回ることが出来ないため、屋台のようにはいきませんでしたが、日頃のお食事では出ることのない串に喜んでいました。

そして今回は、雰囲気だけでも味わってもらおうと思い、ノンアルコールビールを用意してみました。アルコールは入っていないのになぜかいつになく陽

気になり、楽しそうに召し上がっていただき、おかわりをする方も多くいて、用意していたビールはあっという間に飲み尽くしてしまいました。今度はもっと満足するまで食べて飲んでもらえるようにしたいな・・・と思いました。



## 外来バス遠足

去る6月7日岩里病院恒例のバス遠足でした。今回は福岡方面という事で新型インフルエンザの影響が希望者が最初は少なく心配していましたが、患者さん26名・職員16名・計42名で行って来ました。

まず最初に大宰府天満宮へ参拝する方と九州国立博物館に希望する方へ分かれまして。博物館は、金子量重氏寄贈品によるアジアの民族造形展で用途が同じでも国・地域・民族・時代によって形態やデザインが違い、とても貴重な物を見ることができました。今、話題の場所という事もあり私達が帰る頃は渋滞が出来ていた程です。

次は皆さん一番楽しみにしていたハイアットリー

ジェンシーでの昼食です。バイキングスタイルで種類も豊富でとても美味しく沢山食べ満足した後は、マリンワールド海の中道で可愛いアシカやイルカのショーを観て楽しみました。最後に観光会館博多で皆さんの大好きなお買い物です。お土産を沢山買って日田へ帰りました。

今回は近場という事もあり時間にも余裕があり無事にバス遠足を終了することが出来ました。残念だったのは、例年より参加者が少なかったことです。独居の方・体が不自由な方・なかなか遠出の出来ない方・先生やスタッフとゆっくりと話しながらのバス遠足は楽しいですよ。来年のバス遠足は是非参加して下さい。沢山の参加をお待ちしています。

外来NS 河津裕美

## 全体研修会

6月13日と27日に、聖陵会の全体研修会が、パトリア日田で行われました。

この研修は、病院においては、年に1回以上行うように指導されているもので、聖陵会でも毎年1～2回開催されています。

今回、参加したスタッフに色々感想を聞いたところ、とても好評でした。

堀内先生からは、新型インフルエンザのパンデミックについての講演があり、今とても旬な話を聞くことができ、子供を持っている親としては、安心できる話を聞かせていただきました。

小南先生の安全管理に関する講演もとても分かり

やすく、そして面白く話を聞くことができ、聖陵会の研修だけで話を聞くのは勿体ない、もっと他でも話をしたほうがいいんじゃないかとの声もありました。講演の合間に行われた河津まみさんのコンサートも、とても前向きな姿に感動を覚えました。とても有意義な時間を過ごすことができた研修でした。

講師の先生方、そして河津まみさんありがとうございました。





## 日田漫歩 ③〇

### 「靈威の妙」

梶原義則



日田市若宮町の三隈川右岸にそびえ立つ椋の木。明治、大正の洪水で、計93人がこの木につかまり助かった。6月21日の霊木祭を取材中、ふと眼前のお地蔵さまに目が留まった。何と、ひざの上にもう一つ「頭」がある!?

由来記には「双つ頭（かしら）地蔵尊」とある。立派な和尚がいた。明治22年の洪水の際、村人は椋の木への避難を促したが、「御仏やお寺を置いていけない」。和尚はお寺や仏さまと一緒に濁流に呑まれた。金色の後光が差し、一つの輪になって西の空へ飛んでいった。村人は慰霊のお地蔵さまを祀った。だが、大正10年の洪水でお地蔵さまが流された。胴体は見つかったが、頭は行方不明に。頭を新調した。

その後日談。草競馬場が出来た。馬が走ると



必ず同じ場所で転ぶか、乗り手が落ちる。不思議に思い、そこを掘ると頭が出てきた。お地蔵さまのひざの上に頭を付けた一。

お地蔵さまに手を合わせる。あれっ、どこか似ているなあ、と思出したことがある。

昭和47年、茨城県にいた。親しい郷土史家から電話があり、「常陸利根川の一部埋め立てに立ち会い、川底から『忍潮井の瓶（おしおいかめ）』が見つかった。実に千百数十年ぶりに神秘のベールをぬいだ」。すっ飛んで行く。中をくり抜いた男瓶（重さ1・5ト）と女瓶（同200キ）があった。取材すると、平安初期、「東国三社」として有名な息栖神社前の水底に埋められ、口から清水が湧き出していた。伊勢の明星井、山城の直井とともに「日本三霊水」と呼ばれた。撰集抄や新編常陸国誌に記述があるが、その姿を見た者はいなかった。

息栖神社に奉納されたとき、神々しさを感じる瓶に「二礼二拍手一礼」。

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

## ボランティア活動を通して

7月3日（金）に、立命館アジア太平洋大学（APU）から、NPO法人『The tree of minority tribes』のボランティア活動についての取材をしたいと、高森な奈さんという学生さんが来訪されました。

この方は、英語の講義を専攻しており、将来、英語教師になる為に日々勉強に励んでいるそうです。そして今回は英語の講義の中で「リサーチプロジェクト」という、あらゆる情報を「リサーチ」し、それを取材など行ってから内容を英文にして皆の前で発表するという取り組みがあり、高森さんが「大分県内の国際協力」をリサーチしたところ、当NPO法人が検索され、取材を試みるにいたったそうです。

この、NPO法人の活動をしていく中で、時々このような思いがけない申し出や出会いがあり、そこから支援への理解や協力の輪が広がっていく事は本当に有り難いですし、やっつけてよかったと感じます。

今後もこのような出会いを大切に、活動を続けていきたいと思います。

NPO法人『The tree of minority tribes』  
理事長 石田こすえ

**編集後記**  
いよいよ夏到来！  
2人分の心臓を動かしている身の今、とても過酷な夏に感じています。暑いからと、ビールとソーメンばかり食べていませんか？ 暑い夏こそ、夏野菜を食べ、また体内に熱がこもらないように温かい物を食べて代謝をあげ、夏を元気に乗り切りましょう。（K・Y）



医療法人 **聖陵会**

■ホームページ <http://www.seiryu.or.jp/index.html>  
■E-mail [seiryu@seiryu.or.jp](mailto:seiryu@seiryu.or.jp)

救急指定 **聖陵岩里病院**

介護老人保健施設 **聖陵ストリーム**

居宅介護サービスセンター

訪問介護サービスセンター

こども発達・支援センター・銀河

**聖陵花月クリニック**

**アンコール小児病院(カンボジア)**